

TOKYO854 くるめラ出演の感想 ―感謝とこれからのこと―

2020 年 7 月 5 日 東久留米の井戸水位を調べる会 駒田智久

6 月 30 日の午後、くるくるチャンネルの枠で「東久留米の井戸水位を調べる会」として標記 FM ラジオに出演させていただきました。こちらとしても初めての放送メディアへの出演ということで、それなりの準備をしていましたが、それもしっかりと吸収して頂いた上での巧みなリードのもと、会のことをあれこれ 1 時間近く語らせていただいたことは、幸せと言ってよい出来事でした。大変有難く感謝しています。

くるくるチャンネル*のことは平成 19 年 5 月に設置された市民環境会議への参加以来、地域に係る活動を始めて、発信媒体として意識していました。(ちょうど同じ頃に、前身のふれあい情報サイト“くるくる”もオープンされていたようです。)

*以下、勝手ながら「くるチャン」と略記させていただきます。

この会も含めて、自身が係わってきた地域の市民活動の関係では、活動自体の対外的発信もさることながら、その活動の担い手の確保が大きな課題でしたし、今も全く変わりません。いずれこの市民団体も同様の状況にあると思いますが、活動を担ってきたメンバーの高齢化に伴って、その活動のアクティビティが低下し、或は活動の継続、更には組織としての存続自体が危ぶまれる状況に陥ってきています。その背景には、社会の著しい高齢化の進捗、それに伴う年金支給年齢の逃げ水のような先送り、何時まで経っても“楽隠居”とならず「ずっと働いてくれ」という状況があります。その一方で、若い方々の参入は、それはそれで事情が有って、オイソレとはいきません。

ということから、多くの市民団体が担い手の確保に向けて躍起なのですが、如何せん、その方法〜ツールが古いというか、多くの方に響く発信ができないでいます。市報とか、各地域センターでのチラシ配付で、会への参加やイベントへのおさそい等はしているものの、Facebook などの SNS は勿論、ブログの活用などもできないままになっているのが多くの市民団体の実情かと思います。これらの発信に長けている若い方々も含めて、参加する方々が枯渇している、だから発信ができない、だから人が集まらないという、今時、流行りの「好循環」の真逆のサイクルとなっているのです。

その中で、くるチャンは比較的、トツキ易い媒体として一定の活用が図られてきていると思いますが、我が会としては、それも十分にできていなかったのが実情と言えます。にもかかわらず、今回、そのくるチャンサイトの関係で、別のメディア・放送媒体で 1 時間近くも会のことについて語らせていただいたのは「有難い」の一語に尽きることでした。

とは言え、そもそも、この TOKYO854 くるめラはどのような方が聞いておられるのかも実は承知していませんでした。くるめラが発足したのは丁度 4 年前のようです。正式発足前だったかどうか、市の「環境フェスティバル」を取材されていた時から、相当の関心を持っていましたが、その時は自身の受信ツールで上手く聞けなかったこともあって、興味の対象から遠のいていました。今では出力もアップしているのですが、今回、放送中にリスナーの方から質問を頂い

たり、くるチャン運営委員会の Facebook における事後の報告記事に“超いいね”1 個を含む全 18 個の“いいね”を頂くなど、一定の方が聞いていただいたことでホッとしているところです。

くるチャンのアクセス数はこの 14 年間で 10 万件と記されています。年にすると 6~7 万件。近年はもっと増えているのですが、これをどのように考えるのでしょうか？ そんなに多くないような気もしてしまして、そのアクセス数が飛躍的に増えることを期待していますが、それには登録団体の頑張りの必要なのでしょう。

自身の情報検索はもっぱら Google に頼っています。地域のことも、先ずはくるチャンサイトには行きませんが、それで良いのではないかと、思っています。Google で検索して、くるくるチャンネルの記事に引っ掛かればいいのですから。

ただ、くるチャンの発信がくるチャンサイトだけでなく、上記の Facebook の一層の活用などその情報発信力の向上に努めて頂ければ、参加市民団体との Win-Win の関係が向上するのではないかと、思っています。

くるくるチャンネルも TOKYO FM85.4 くるめらも、地域の発展をその「願い」とされていると思います。それは井戸水位を調べる会も同じです。規約の「3. 目的」には「良好な水環境の保全と創出に」役立つとしています、ひいては地域の発展に役立つことを願っているのです。

様々な形で、市民団体とくるチャンやくるめらのような媒体の連携・協働を通じて、まちの発展に役立つことができるよう考えていかねばならないと感じた次第です。

追記)

自身が係わっている、地域の水に関係して活動している市民団体はもう一つあります。平成 26 年の水循環基本法の施行、27 年の水循環基本計画の閣議決定を受けてスタートしました「東久留米の水循環を勉強する会」が、報告書刊行という一定の達成を果たした後、その発展的継承団体として、昨令和 4 年春にスタートした「東久留米・黒目川流域 水の会」です。この会のことも、今回のような放送枠の中で是非ともアピールしたい希望もありますが、年 4 回の枠の中で勝手なことは言えないと抑えています。くるチャンさんには、是非ともその回数を、多く確保していただきたいと願っています。